

<h1>三愛 view</h1>	発行所：三船病院相談室 創刊日：2003年8月15日 〒763-0073 香川県丸亀市柞原町366 Tel 0877-23-2341 Fax 0877-23-2344
------------------	--

「介護老人保健施設 福寿荘」

～時代の変化に適応しつつあなたと一緒に少しでも前へ～

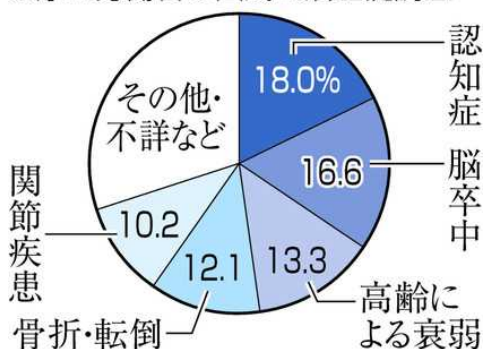
施設長 医師 小笠原 坦

暑かった今年の夏も少しずつ気温が和らいで、秋らしくなってきましたが、みなさまその後お変わりございませんか。当介護老人保健施設(以後「老健」と略)「福寿荘」の開設が平成2年5月ですから、はや27年経ちました。

この27年間で「麻痺と認知症」の保険と言われる介護保険、対象者も当初とは変わってきました。次図は昨年度の「介護が必要になった主な原因」です。

介護が必要になった主な理由

※厚生労働省の国民生活基礎調査



男性は脳血管疾患が多く、女性は骨・関節など運動器障害が多く、次いで男女とも「認知症」です。老健は「病院と家庭との中間施設」と位置づけられた地域支援型施設です。

実際の内容は以下の通りです。当施設に入所されている方の入所前居所分布は、協力医療機関32.9%、その他医療機関30.3%、関連医療機関11.8%、他施設2.6%、家庭22.4%となっています。入所者の平均年齢は84.9歳で、男女比は男性29%、女性71%になっています。要介護度別人数では、要介護Ⅰが7.8%、要介護Ⅱが29.9%、要介護Ⅲが15.6%、要介護Ⅳが24.7%、要介護Ⅴが22.1%です。

「老健」は、介護保険施設の中でリハビリや医療に携わる職員が多いたる施設として療養と介護の両面での役割があります。

最近の業務の変化は、なんといっても利用者様の

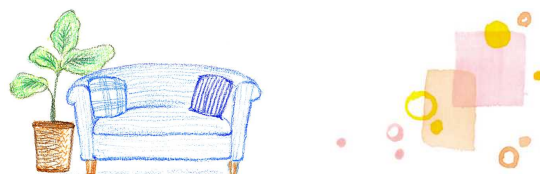
超高齢化と重症化です。確かに超高齢化と重症化は進んでいますが、寝たきり状態のままという方は、ほとんどおられず少しでも車椅子に、少しでも起立・歩行に、リハビリは少しでも全員にという方針で行っています。

医療面では、「超高齢者であっても、早期発見・早期治療が基本」という信念で対応しています。幸い当地方は高度医療・救急医療機関に恵まれ、急病発生時には良い対応をして頂けるので感謝しています。最近ではターミナル状態となったとき、最期まで診てケアして欲しいとの希望も多くなり、看取りも多くなっています。そういう事情をふまえての当施設、現在の運営目標と方針は以下の3つです。

1. 地域から選ばれる施設になること
2. 実務内容では「基本に忠実に 優しさをこめて」です
3. それと「働きやすい職場づくり」

これからの「老健」の業務の展望は、全老健幹部の言うように「今まで老健では対応しなかったような対象者、重大疾患のターミナルに向かう長い間の対応、増えるターミナル対応と、リハビリで早期に家庭復帰する方への対応」など他介護施設にはない「医療行為・リハビリ」ができる点に重点を置くことになります。このためには、職員の意欲的な研修・学習が必要です。

現在の日本は人口の減る時代、介護福祉士のなり手がいない現状など不安材料はいっぱいあります。職員一同「同じ生きるなら 同じ働くなら 明るく心楽しい毎日を」・「基本に忠実に、優しさをこめて」をスローガンにして頑張っています。利用者様と御家族・職員一同から「ここで過ごせて、よかったのかも」と小さな幸せ感を持って頂けたらというのが私の願いです。





精神科訪問看護室の紹介

外来・訪問看護室 看護師 高島 尚美

当院の訪問看護は、平成16年9月に慢性期の入院患者様の退院を目的とした地域生活支援委員会の発足に伴い事業を立ち上げたのが始まりです。利用者は徐々に増え、平成19年4月には外来に訪問看護室が開設され専従看護師が配置となりました。その後も利用者が順調に増え、昨年度の訪問件数は延べ2520件(月平均210件)となりました。因みに訪問看護室が立ち上がった平成19年度の訪問件数は、延べ1137件(月平均約95件)だったのが、この10年間で2.2倍の件数となりました。また今年の4月より専従看護師が2名から3名に増え、訪問出来る枠を拡大しました。

さて、皆さんは訪問看護と聞くと体温や血圧などを測定したり、色々な処置をすると思うのではないのでしょうか。当院の訪問看護は精神科訪問看護という枠組みの役割として、自宅(地域)で暮らす利用者の生活が維持できるように医療の立場から見守っていくことを行っています。保健師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士の専門職で、本人が生活している場(自宅)に直接伺います。定期薬が指示通り飲んでいないことが悩みの場合、一緒に服薬方法を考え試して見ます。その結果、飲み忘れが少なくなりイライラすることが減ったと実感された方

もいます。また運動不足の上に食欲旺盛が原因で最近は大変な気味、何をどれだけ食べたらいいかわからない悩みがある場合、普段の食事や生活状態をお聞きして、今の生活の中で改善できることを考え実行してみたら、体重が少しずつ減ってきている利用者や、作業療法士が考えた手軽にできるストレッチ運動とわかりやすい体重表を使い、自分の身体を把握して体重を減らそうと頑張っている方もいます。このようにお薬に関する事、食事に関する事、睡眠に関する事、お風呂・着がえ・洗濯などの清潔に関する事、家族や友人など人間関係に関する事など、見守っている内容は無限大です。訪問の際に「いつもと違うな?」と感じるときには早めの受診を勧めたり、その場で主治医と連絡を取り指示を聞いたり、時には入院に繋げることもあります。

今まで入退院を繰り返してきた方が、訪問看護の利用を始めたことで自宅での生活を長く続けられている方や、小さな病状の変化に気付いたことで早めの外来受診のみで入院せずにすんだ利用者の方を見ると、心から良かったと思います。普段の生活に不安があり、訪問看護を受けてみようかと思った方は、お気軽に主治医や外来・相談室のスタッフにお知らせください。

三船病院医師からのメッセージ・・・



「発達障害」って聞いたことがありますか?

三船病院 医師 三谷 理恵

「発達障害」という言葉を聞いたことはありますか? 「発達障害」と一言で言っても、その種類はいくつもあります。そのうちのひとつに「広汎性発達障害(最近では自閉症スペクトラム障害ともいいます。スペクトラムというのは、幅がある、ということ)」とよばれているものがあります。この障害は、「コミュニケーションと社会生活のしづらさ」が幼少期から存在することが特徴です。少し前まで「発達障害」は、幼稚園や小学校で、みんなと一緒に活動に参加できない、かんしゃくが激しいなどの困りごととして、診断や治療、療育(トレーニング)がなされるものと認識されていました。けれど最近では発達障害という言葉が社会にも良く知られるようになり、中学生や高校生の間でも、コミュ障(コミュ障の全ての人が発達障害なわけではありません)という言葉が流行っていきたりします。また社会人になってから、「空気が読めない」と指摘されたり、仕事上の困難さや、子育ての困難さなどから抑うつとなって精神科を受診し、「発達障害」とわかることもあります。発達障害があるからといって、必ずしも診断や治療が必要なわけではありません。発達障害的傾向を持つ多くの人は、大人になるまでの間に、生活上の工夫や努力、経験を重ねる中で得られたことを鎧として身につけ、社会人として頑張って生きていらっしやいます。でももし、その困難さのせいで非常に生きづらさがあるとき、私たち精神科医は、その方の生活が少しでも安定した良いものになるよう、アドバイスや支援を行っていきたいと思っています。

三愛会 トピックス

★三船病院 夏祭り

8月5日に三船病院の夏祭りがありました。ゲストには、いやだに神農太鼓の皆様と爽郷やまもと連の皆様をお招きし、賑やかな太鼓の演奏やよさこい踊りで会場は大盛り上がりでした。工事の関係上、来年から夏祭りは一旦中止となります。毎年恒例の花火も今年で見納めということもあり、例年以上に豪華でみなさま歓声をあげ喜ばれていました。



三船病院 委員会活動紹介

人権委員会

委員長 院長 三船 和史

人権委員会の委員長として、また病院長の立場で入院患者様の人権の問題について述べます。

三船病院では10年以上前から委員会を毎月開催し、主として入院患者様の人権について、その問題の有無等を検討しています。精神科における人権とは、患者様の権利を重視し、守ることだと思います。三船病院では患者様の権利として次の5項目を挙げています。

- ① 人格や価値観などが尊重され、良質な医療を公平に受ける権利
- ② 病状や診療についての十分な説明を受ける権利
- ③ 自らの意思で治療方法などを選択する権利
(但し、非自発的入院の場合は制限されることがあります)
- ④ 個人情報の秘密が守られる権利
- ⑤ 自身の診療録の開示を求める権利
(但し、当院の診療情報提供指針による手続きが必要です)

精神科においては、精神障害者(特に入院患者)の人権を守るために精神保健福祉法という法律があり、きめ細かく定められています。当院の人権委員会は精神保健福祉法に基づく行動制限最小化委員会とほぼ同じメンバーで構成され、各委員はそれぞれの領域にわたって考え方を共有しています。

★第36回 家族教室

8月24日に開催しました。日中の居場所～地域活動生活センターはなぞのについて～というテーマで、利用できる事業所やサービスの紹介を行い、その中でも地域活動支援センターはなぞを取り上げ、精神保健福祉士の船井未央氏を講師にお招きし、施設の紹介をしていただきました。回を重ねてくると、ご家族同士が顔馴染みとなることで交流をもったり、お互いの悩みの相談などをする場面も多くみられ、こうした勉強会を継続することの大切さを実感しました。



5項目はいずれも重要ですが、項目①を特に重要視しています。患者様の病状がどうであっても、その人の人格を尊重して、適切な言動をとることが人権を守ることにつながると考えます。もう1つは患者様に良質な医療を提供することです。入院患者様には、入院後比較的短期間で一定の改善をみて退院する一群と、主として病状の問題で長期入院を余儀なくされている一群の2極分化があり、後者に対して適切な医療を提供していくことが人権上特に重要であると思っています。主治医、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士など多職種が1人の患者様に関わるチーム医療体制を配置しており、治療手段も通常の医療だけでなく、クロザリルによる薬物療法や修正型電気けいれん療法などの特殊な治療法も用意するなど良質な医療を提供できるように努めています。

良質な医療には各種治療手段だけではなく、良質な療養環境も不可欠です。三船病院では平成28年4月から病棟を含めた療養環境を改善するための工事を行っており、平成31年の春までには完成する予定です。

このようにより良い医療や療養環境を提供することも入院患者様の人格を尊重し、人権を守ることにつながっていくと考えています。



【三愛会コミュニティセンター】

「多機能型事業所ワークサポートセンター三愛」

就労継続支援B型さんあい 課長 松原 美和

平成18年障害者自立支援法の施行後、平成24年4月に始まった当法人就労継続支援B型事業は、平成26年4月より多機能型事業所ワークサポートセンター三愛の完成とともに、就労継続支援B型事業さんあい(以下、さんあい)と名称変更し、4年目となります。法制度上も平成25年以降は障害者総合支援法の中に位置付けが変更となりました。

一般事業所に雇用されることが困難な障害者を対象とし、生産活動や、その他の活動機会の提供、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援を実施するのが役割です。同時に日常生活上の相談、支援も関係機関と連携しながら行っています。

平成24年の開所当初は内職活動1~2社と農作業が主な作業活動で定員も10名でしたが、現在は登録メンバーも40名ほどに増えました。スタッフは精神保健福祉士2名、社会福祉士1名、パートスタッフ4名の計7名で活動しています。作業内容も平成26年4月より内職は4社増え、箱折作業メインであったのが、子供服出荷前作業、たとう紙、市町ゴミ袋、換気扇フィルター封入作業と、作業の種類が増えて、それぞれ得意な作業を分担しています。また、施設の外に出向いて行う作業は、平成26年4月にスタートした三船病院食器洗浄作業をはじめ、香川県社会就労センター協議会を通じての農作業(にんにく、玉ねぎの定植収穫、レタスの定植・除草)、個人農家の手伝い(にんにく、玉ねぎの定植・収穫、桃の収穫)、海外輸出向けリサイクル品の清掃や箱詰め作業と多岐にわたっています。その他、畑作業では無農薬野菜の栽培販売もしています。作業種類が増えると納期や手順が複雑化し大変ですが、メンバー個々の得意なことを活かすため、さんあいから就職していくメンバー、就労移行支援へステップアップするメンバーなど、個別目標を達成するために、軽作業から少し高度な作業が必要となります。さんあいは自主生産作業を持っていない外部受注が中心の事業所なので、一定の作業量を確保しておくことも同様です。

就労継続支援B型事業として就労の機会の提供、訓練はもちろん、安定した生活の維持がなければ就労に結びついたり、継続利用することも容易ではありません。そのため、相談援助を丁寧に行うことを心がけるようにしています。個別目標が達成され、日中活動が充実したものになるようにサポートしていきたいと考えています。



《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

○三船病院クリスマス会

日時: 12月25日(月)

場所: 三船会館

内容: バザー
ゲーム等



《編集後記》

さわやかな秋晴れの続く今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。2面でもふれましたように、三船病院では入院治療だけではなく、退院後の生活や地域で生活している方の医療サポートにも力を入れています。また、今回は訪問看護についての話でしたが、外来で利用できるサポートや制度は訪問看護の他にもたくさんあります。そういった地域で暮らしながら利用できる制度や支援の話、利用について等、ご希望やご相談がございましたら主治医や医療相談室のスタッフにお声掛け下さい。(三船病院相談室PSW)